

優秀賞

高校生部門〈家族の絆〉

私立滝高等学校 1年

小島 佳連

「安心」のプレゼント

私の祖父は、五年前からアルツハイマー型認知症を発症し、現在は重度と診断されています。家族の存在を忘れてしまいました。一番大好きな一人娘の母のことを忘れてしまい、自分の名前すらも忘れてしまいました。そんな祖父ですが、何もかも忘れてしまったので、誰に対しても敬語や丁寧な言葉遣いで対応するという、変というか却って素敵な祖父に変身してきています。「トイレに連れて行っていただけますか」「申し訳ございません。起こしていただけますか」食事を残した時には「じいちゃん、どうして食べないの？」と私が聞くと、「これは、僕の口には合いません。すみません」と答えます。リハビリパンツの中に排尿する時、「スタンバイOK、GO」と言い、母は「お父さん何？ 英語も喋れるの？」と家族の温かい笑顔を誘ってくれます。こんな楽しい祖父ですが、本当は家族の存在が全く分からず、他人と生活している設定ですから、いつも緊張と不安の中で生活しているのだと思うと、居た堪れない気持ちにもなります。元気で健康だった優しいじいちゃんを思い出します。私が小さい頃、言葉を沢山教えてくれましたね。公園や庭で一杯遊んでくれましたね。そして、私に一杯の愛情を注いでくれましたね。頭髪は勿論、髭までもが真っ白になり、ひとまわりもふたまわりも小さくなったのは私が大きくなったからではないと思います。老いるということを受け止め、認知症を理解しなければと思います。私の成長をいつも見守ってくれた分、今度は私がじいちゃんに色々教えてあげます。忘れても、忘れても、何度も何度も、じいちゃんが嫌がっても、私が沢山の愛情を注ぎます。赤ちゃんの時いっぱい抱っこしてくれた分、今度は、私が「ぎゅっ」と抱っこするからね。だって私たちは家族なんですよ。「安心してね」という言葉を心を込めてプレゼントします。

私が孫の佳連です……